

適正利用・エコツーリズム検討会議の経過報告・今後の予定

【適正利用・エコツーリズム検討会議の仕組み及びWGの運営】

本検討会議は、地域連絡会議の適正利用・エコツーリズム部会と科学委員会の適正利用・エコツーリズムWGと合同で2010年から開催している。検討会議は、「保全と利用に関する調整を管理主体関係者と専門家、地域関係者が同じ立場で検討する場」である。そして知床世界自然遺産地域管理計画および知床エコツーリズム戦略に基づき、世界遺産地域の資源の適正な利用及びエコツーリズムを含む観光の持続可能化を推進している。その基本原則は次のとおり。

○遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上

○世界の観光客への知床らしい良質な自然体験の提供

○持続可能な地域社会と経済の構築

検討会議では、戦略に基づく提案制度による提案の検討とモニタリングを毎回議題にしている。なお、長期モニタリング及び既存ルールの見直しなど、専門家同士の意見交換が必要な課題が増加したため、2018年度から適正利用・エコツーリズムWGを単独開催している。

1. 令和5年度（2023年度）適正利用・エコツーリズム検討会議の開催概要

- ・第1回会議 令和5年（2023年）11月10日（金）小清水町愛ホール

2. 主な議事内容

知床エコツーリズム戦略に基づく提案の進捗状況や取組の現状報告、また関係機関の取組などについて、議論されました。主な報告内容は以下のとおりです。

■知床エコツーリズム戦略に基づく提案の進捗状況

- ・新規提案及び検討中の案件はなし。

■個別部会等からの報告

【厳冬期の知床五湖エコツアー事業】

- ・2022年度の利用人数は1,760名、実施日数は45.5日となった。
- ・今年度の事業期間について、昨年と同様の60日間（2024年1月21日～3月20日）とする。正式決定は知床五湖冬期適正利用協議会の開催後となる。
- ・2019年度以降、暖冬による湖面状況の悪化を主な要因として予定期間（60日）の前に事業を終了せざるを得ない状況が続いているため、体験機会の確保を目的に、代替ルートの設定が提案された。具体的には、知床ガイド協議会と知床斜里町観光協会が主体となって、2024年1月中旬頃に現地調査を実施し、静寂性や自然環境への影響、安全性等について検討し、代替ルートを設定することで合意された。検討結果は、第2回検討会議において報告される予定。

【知床五湖地区における取組み】

- ・2023年度の利用調整期間（4/20～11/8）の地上遊歩道立入認定者数は、9月末時点で48,830名（前年同時点比120%）。コロナ禍前の2019年度と比較すると75%程度の入込状況。
- ・ヒグマ活動期（5/10～7/31）に注目すると、2023年度は15,382名（前年比146%）となり、2019年度に続き過去2番目に多い。
- ・ヒグマ活動期における外国人参加者数は3,538名（前年度79名）であり、コロナ禍前と同程度の実績まで回復した。
- ・地上遊歩道におけるヒグマ目撃件数について、2023年度のヒグマ活動期は96件（前年48件）であり、制度開始以来3番目の多さ。植生保護期は8月の遭遇件数が23件（前年7件）で、制度開始以来最多。
- ・一湖に繁茂する園芸スイレンの調査及び試行的な除去作業を実施。国立公園としても重要な展望地の景観であることから、地域の力添えを得て来年度以降も進めていく予定。
- ・携帯電話キャリア4社が携帯電話基地局を整備。

【カムイワッカ地区における取組み】

- ・カムイワッカ湯の滝活用検討事業

試行事業の3年目として実施。今年度よりカムイワッカ湯の滝上部区間（4の滝まで）に加え自由利用区間であった下部区間も含め、全域をオンラインシステムを用いた有料・事前予約制に移行。現地の利用方法は全面的に変更となった。新たな利用プログラム「カムイワッカ湯ノ滝のぼり」として7月1日（土）から10月1日（日）までの93日間の運用を行った。

- ・マイカー規制とシャトルバスの運行

①7月と8月の繁忙期に車両規制を伴わない渋滞対策（計9日間）、②7月22日から8月19日にはマイカー規制（29日間）を実施した。マイカー規制は、カムイワッカの利用制度の変更に併せ、運行体制や利用方法などを全面的に変更して実施した。

■関係機関の取組について

- ・「知床アクティビティリスク管理体制検討協議会」からリスクマネジメントに関する検討・進捗状況報告がなされ、今後、現行の制度や計画との整合性を図るとともに、実行性のある体制を整備する方針が示された。
- ・ホロベツ園地の再整備事業（老朽化したフレペの滝展望台の改修）に関する報告がなされ、11月中に実施設計を基に関係機関へ説明する方針が示された。

■世界遺産管理計画と知床エコツーリズム戦略の見直しについて

- ・国立公園のブランドプロミスについて紹介があり、知床エコツーリズム戦略の検討にも反映する方針で合意した。
- ・遺産管理計画の見直しに関して、引き続きWGで議論することとなった。
- ・策定から10年以上が経過した知床エコツーリズム戦略についても、遺産価値の現状や社会情勢の変化、適正な利用の観点から、見直しを進めていくことが合意された。

3. 令和5年度（2023年度）適正利用・エコツーリズム検討会議に関する今後の予定

◆第2回会議

令和6年（2024年）2月7日（水）